

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871100404
法人名	慈孝会
事業所名	グループホームこうの
所在地	松山市河野別府179-1
自己評価作成日	平成23年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者、職員も地元の方が多く、自然に恵まれている。畑の収穫の楽しみがある。デイサービス・小規模と併設している為地域の方との交流が多い。趣味活動・行事等が活発である(俳句・生け花・陶芸・ちぎり絵・絵手紙折り紙など)地域の子供たちの交流がある。デイサービスの大浴場で2～3人の方と入浴できる。口腔体操を実施し口腔機能低下予防に努めている。パワーリハビリ(マシン)使用し機能訓練が出来る。利用者優先のケアを心がけそばに寄り添い傾聴するケアに心がけている。また利用者の要望・意見・不満等、職員全員また家族にも協力してもらい満足のいく方向へ日々努力するとともに、受容のみでなく全ての面で個々の利用者に対して、自立、予防介護への前向きなミーティングを行っている。

●ご家族の来訪時、職員は、ご家族と一緒にお茶を飲みながら利用者の暮らしぶりを報告して、「何かお困りのことはないですか」と、ご家族の心配ごとを聞き取っておられる。地域交流会、春・夏祭り、開設記念行事等の際には、併せて「介護教室」を開催されており、ご家族等にも認知症に対する理解を深めていただけるよう、取り組まれている。

●居間から見える菜園では、野菜を育てておられ、食事に採り入れておられる。利用者は、ごぼうのささがきや、にんじんの千切り等、食事の下ごしらえを職員と一緒にされ、食前には口腔体操をみなで行ってから食事をされている。利用者は、和食を好まれる方が多く、調査訪問時の炊き込みご飯をみて「今日は色ご飯だ」と喜ばれ、利用者個々がお好きな量をお茶碗によそっておられた。食後は、キャスター付きのワゴンに食器を乗せて下膳される利用者や、ランチョンマットをたたんでかごに片付けする利用者等もみられた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

(ユニット名)

グループホーム こうの

記入者(管理者)

氏名

前野 悦子

評価完了日

H24年10月15日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を具現化して(グループホーム・個人)目標を立て目に触れる所に張り出し、意識の積み重ねで行動に移せるように努力している。また、年度末に結果を報告している。 (外部評価) 事業所理念に、「お年寄りに対する尊敬の気持ち」「地域社会への貢献」「やりがいのある職場作り」を掲げておられる。又、毎年、目標を立てておられ、今年は、「1回でも多く研修に行くこと」「1回でも多く家族とのつながりを持つこと」を挙げておられた。さらに、職員個別にも目標を決めておられ、「この新聞」に載せて、ご家族にも知らせておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の春・夏祭りに参加し地域に出かけたり、記念行事や地域交流会を開催し近所の方に来ている。また小学校、保育園と交流がある。(施設訪問・七夕飾り・お遊戯会・運動会等) (外部評価) 隣接する公民館の春・夏祭り時には、利用者と一緒にお寿司を作って販売されたり、輪投げゲームを企画して地域の方達と楽しい時間を過ごされた。併設事業所と合同で、「中学校の職場体験」や「小学校の福祉体験」の受け入れをされており、利用者は、子ども達とゲームをしたり、紙しばいを見たりして楽しみながらふれ合われた。7月の七夕の際には、近隣保育園の園児の訪問があり、踊りや歌を見せてくれたり、一緒に七夕の笹飾りを作られた。秋にはみこしが来てくれたり、だんじりを職員と一緒に見に出かける利用者もおられた。併設事業所と合同で行う、「地域交流会」には、「この喫茶」を開き、地域のボランティアの方の協力も得て、職員手作りのゼリーやシフォンケーキを販売されたり、法人が作ってくださった屋台で駄菓子を売ったりされた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議・健康教室等で認知症の人への理解や接し方の勉強会を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 小規模多機能居宅介護の職員や利用者・家族地域の方などに参加してもらい、意見交換や質問を受けて検討している。常勤者が、参加できるよう勤務調整をしている。また地域の防災士の方に協力してもらえよう声をかけている。</p> <p>(外部評価) 会議は、隣接する小規模多機能事業所と合同で行われており、利用者、ご家族、民生委員、地域の方が参加して開催されている。事業所からは、近況報告や職員の研修報告、年間行事予定等を説明されたり、5月の会議時には、夜間の火災を想定した避難訓練を実施して、メンバーの方達に見学していただき、意見を聞かせていただいた。</p>	<p>現在、会議のメンバーが決まった顔ぶれになってきていることから、事業所では、今後さらに地域のいろいろな方に声をかけて、会議に参加していただきたいと考えておられる。会議を活かして、地域の協力者の輪を拡げ、今後さらに、いろいろなケアや取組みにチャレンジしていかれてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 北条地区の松山市地域密着型サービス連絡協議会に出席し他施設との情報交換を行い質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 年4回、地域包括支援センター主催の地域密着型サービス連絡協議会に出席し、同業者と意見交換されたり、「運営推進会議の議題」について等、運営に参考になる資料をいただくこともある。運営推進会議には、市の担当者の方に参加いただき、消防訓練を実際に見学していただき、意見をうかがったりされている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束委員会を持ち毎月話し合いを持ち身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また勉強会を実施し正しく理解している。また玄関の施錠はしていない。(7時～20時)</p> <p>(外部評価) 事業所独自の、「身体拘束廃止チェックリスト」を用いて、毎月職員はチェックして、身体拘束をしないケアに取り組まれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待が見過ごされることがないように注意を払い虐待防止に努めている。身体拘束委員会で毎月検討している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社協等主催する成年後見制度及び権利擁護についての研修に参加したり伝達講習で勉強している。必要があれば、希望に添えるよう準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、事務所のケアに関する考えや、取り組み、退去、重症化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて詳しく説明し同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置したり、ご家族、来所時や家族会等で常に問い掛け何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。苦情、不満がある場合、毎月の業務改善委員会や運営推進会議で検討する仕組みを設けている。 (外部評価) ご家族の来訪時、職員は、ご家族と一緒にお茶を飲みながら利用者の暮らしぶりを報告して、「何かお困りのことはないですか」と、ご家族の心配ごとを聞き取っておられる。地域交流会、春・夏祭り、開設記念行事等の際には、併せて「介護教室」を開催されており、ご家族等にも認知症に対する理解を深めていただけるよう取り組まれている。季節毎に併設事業所と合同で「瓦版この村」を発行されており、ご家族の来訪時に手渡しされたり、遠方に住むご家族には、日頃の暮らしぶりをお知らせする手紙を添えて郵送されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			運営に関すること等、日頃より職員の声に耳を傾け月1回の業務改善委員会やこの運営会議で情報交換や検討会を行っている。また、理事長先生は、毎週金曜日に来られ食事をしながら利用者や職員の声に耳を傾けておられる。	
			(外部評価)	
			夜勤を不安に思う職員には、「管理者といつでも連絡が取れる」ことを説明して、不安を軽減できるよう、サポートをされている。職員が希望する休日や研修等はできるだけ希望に沿うようにして、働きやすく「やりがいのある職場作り」に努力されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			国家資格の有無等を考慮した給与を設定している。センター長・所長は、2回以上の面談を行い意見を聞いている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修ファイルを用意して希望研修を受けやすい環境を整えている。また勉強会の計画をたて月1回の勉強会・外部研修等の伝達講習を行っている。不参加の非常勤には、自宅で勉強してもらえよう様資料を用意している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			松山市地域包括センター北条地区主催の松山市北条地域密着サービス連絡会議に参加してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			不安が軽減するよう傾聴し、アセスメント表を用い利用者の声・言動を書き綴り職員全員で取り組み情報の共有に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が求めるものを理解して不安が解消できるよう受け止める努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人やご家族の思いや状況等確認し、主治医の継続や訪問歯科の利用等、必要なサービス利用も含めて対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の思いを知り受け止めながら調理、洗濯、畑作り等で生活の知恵を教えてもらう等の場面づくりや声掛けを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事の開催やお花見に案内状を送り参加を呼びかけたり病院受診の時の同伴をお願いしたり、家族との絆を大切にしている。また、常に寂しさを訴えている利用者には、面会ノートに家族の近況報告を書いてもらい、いつでも家族の想いが伝わるような工夫をしている。要望に応じ電話使用して安心してもらう事もある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の要望を家族に伝えて昔なじみの美容院へ行ったり、家族と一緒に墓参りしたりと、繋がりが継続できるよう支援に努めている。また予定通りに行けるよう体調管理等に努めている。遠方に住む家族には、近況報告と共に年4回発行している。「瓦版この村」や趣味活動で作成した作品を送ったり、直接電話で話したり関係が途切れないように努めている。また近所の知り合いの々がボランティアに来てくれる事もある。 (外部評価) 併設するデイサービスや、小規模多機能事業所を利用されていた方の入居も多く、入居後、事業所間を行き来して顔なじみの職員や利用者と交流されている。ご自宅の近所の方が電話をくださったり、時には訪ねて来てくれることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係がうまくいく様に共通点を見つけて多くの会話が持てるようにまたそれぞれの方の話が中心になるように介入して、会話しやすい雰囲気作りに努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりや必要とする付き合いを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人や家族から、今までの生活歴などを聞き取ったり日常の言動に耳を傾け、意向が反映できるよう努めている。また一人ひとりの細かい状況及び思いや意向を把握するためにアセスメント表を作成し検討している。 (外部評価) 利用者が入居されて1ヶ月の間に、食事・排泄・入浴・心理面等について、日々の生活の様子を観察し、又、ご本人の言葉等もキャッチして把握できるように取り組まれている。利用者が外泊する際には、事業所での生活のポイントやケアをまとめたものをご家族にお渡しして、外泊しても穏やかに過ごせるよう支援されている。又、外泊時の様子もご家族から教えてもらう等して、その後の支援に活かしておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) なじみの家具、鉢植え、写真、仏壇等を持参してもらい、今までの生活環境の継続に努めている。これまでの経過等、担当ケアマネや担当看護師・介護士から情報を得て把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人ひとりの声に耳を傾けながら、心身の状態を把握し満足してもらえるように努力している。希望があれば、実行出来るように環境を整えたり、発言しやすいよう雰囲気作りに努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者や家族の要望を取り入れた介護計画を作成しケアを実践している。また定期的にモニタリングを行い本人・家族・職員間で検討や見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 入居1ヶ月間は、「事業所での生活に慣れる」ことを目標に挙げて、介護計画を立てておられる。1ヶ月間のアセスメントをもとに、生活上、利用者が困っていることについて計画を立て、支援されている。計画は、3ヶ月に1度、職員がモニタリングを行い、利用者のご家族を交えて話し合い、見直しされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別のファイルに日々の暮らしの様子や発言した言葉や実践後の結果を記入している。状態が変化した場合や工夫・アイデアを実践に反映させたい時は、個人別伝達簿を利用し情報を共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 医療連携体制を生かして、その利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援を行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近隣の住民や支所・民生委員・保育園・小学校へ年4回発行の「瓦版この村」や行事案内を配布して交流の機会を設けている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族が希望する医師をかかりつけ医としている。定期的受診や通院については、家族同伴の受診をお願いしている。ただし緊急時は、職員が同伴する。主治医と他の医療機関は、診療情報提供書を通じて情報交換している。	
			(外部評価) 母体病院をかかりつけ医にされている方が多く、母体病院からは、月1回、定期的な往診と、必要時には随時往診していただくようになっている。歯科は、近隣の歯科を受診する方もあり、又、訪問診療で診てもらっている方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者に普段と違う変化があればその都度看護師に報告し異常の早期発見・早期治療に結びつくよう努力している。また適切な助言により看護・介護を提供する努力をしている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には、介護要約を作成し利用者の方が安心して治療に専念できるよう努めている。また頻回に面会して関係者から情報を収集し本人や家族の希望に考慮しながら早期退院できるように検討している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重症化した時、ご家族、医師と相談できるようにしている。今後も事業所の出来ること出来ないことを明確にして家族と共に考えて行きたい。	
			(外部評価) 入居時には、ご家族に、「ターミナルケアマニュアル」を提示して、事業所で出来ること・出来ないことを説明しておられる。利用者の中には、「どこにも行きたいくない」と言われるような方もおられるようで、管理者は、「ご本人、ご家族の意向と協力があれば、利用者を最期まで看ることを支援したい」と考えておられる。 重度化、看取りについては、ご本人、ご家族と話し合うような機会を作り、希望に沿った支援ができるような体制を作っていかれてほしい。時には、ご家族も一緒に看取りについての勉強会を行う等、ともに利用者を支えるための取り組みをすすめていかれてはどうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を実施し、対応できるよう努力している。また対応・手当てのマニュアルを目に付くところに貼って意識している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回夜間・昼間想定避難訓練を実施している。また運営推進委員の方・地域の方・家族の方にも協力してもらえるよう連絡網・協力内容を明確にして訓練に参加してもらっている。	
			(外部評価) 5月の運営推進会議時には、会議メンバーには見学していただき、併設事業所と合同で夜間の火災を想定した避難訓練を実施された。居間には、緊急持ち出し袋を設置して、年に一度は中身の点検をされている。11月には、「災害発生時活動マニュアル」に沿って、地震を想定した避難訓練を実施する予定となっており、消防署の協力や地域の防災士の方にも参加いただけるよう、お願いされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) いかなる時も自尊心、プライバシーを損ねない対応に心がけている。また不安時、興奮時には、付き添い傾聴、受容するよう努力している。	
			(外部評価) 入浴時には、ドアを開けてもすぐ中が見えないように脱衣所に衝立を置き、ドアには、「女性入浴中」とプレートを掛けておられる。調査訪問時の昼食の際には、居間の明るさについて、暗さを強く感じると不安がられる利用者がおられ、職員は、窓辺の日が当たる場所にご本人をお連れして過ごせるように支援されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定できるよう疑問符で問い掛けたり、表情で汲み取るよう努力している。また希望が、実現できるよう、家族に協力をしてもらったり職員間で声掛けをしながら満足してもらえるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人ひとりのペースを優先し、1日1日が充実できるよう起床時間、就寝時間、食事時間、入浴時間等本人の希望に合わせてられるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服選びを手伝ったり好みのものが身に付けられるよう買い物に同行したり、家族に伝え買って頂いたりしている。また家族の協力を得て美容院へ行ったり、施設内でカットして頂いたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みを聞きメニューに取り入れている。また畑で採れた野菜が、食卓を飾り、話が盛り上がることもあり楽しく食事ができている。準備や後片付け等利用者のレベルに合わせてワゴン・トレーで下膳してもらっている。 (外部評価) 居間から見える菜園では、野菜を育てておられ、食事に採り入れられる。利用者は、ごぼうのさがきや、にんじんの千切り等、食事の下ごしらえを職員と一緒にされ、食前には口腔体操をみで行ってから食事をされている。利用者は、和食を好まれる方が多く、調査訪問時の炊き込みご飯をみて、「今日は色ご飯だ」と喜ばれ、利用者個々がお好きな量をお茶碗によそっておられた。食事時には、利用者の体格に合わせて足元が不安定にならないように、職員手作りの足置きを置き、食事する利用者もおられた。食後は、キャスター付きのワゴンに食器を乗せて下膳される利用者や、ランチョンマットをたたんでかごに片付けする利用者等もみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養のバランスを考え、体調に合わせた食事量にしており摂取量の少ない方には、無理じ強いせず少量ずつ頻回に勧めたり、栄養補助食品を勧めている。また好みの飲料を聞きながら水分を勧め、水分量の少ない方は、職員が意識できるようにチェックしたりペットボトルを準備し、利用者の方が、いつでも摂取出来るよう工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎回声掛けをして、習慣づけて清潔の保持に努めている。義歯が十分洗えない方や残存歯があり磨き残しがある場合には介助している。また義歯・歯ブラシ・コップ等は、週1回洗浄剤に浸けて消毒したり、日光消毒して清潔を保つ努力をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄パターンを把握し誘導し失敗が減るよう努力している。昼間は、pトイレを使用せず、トイレの使用を促したり、自立に向けた支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 「食事・排泄チェック表」で利用者一人ひとりの状態を踏まえて、個々のタイミングを見計らいながら、排泄への声かけをされている。夜間は、居室内にポータブルトイレを設置しておくことで、安心して眠られるような方もいる。トイレは車いすの利用者が使用しやすいように、扉をカーテンに換えている箇所もあり、利用者をご自分で選んで使用されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 個々の好みや心身の状態に合わせた食事療法・運動療法・薬物療法に努めて対応している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 併設のデイサービスの大浴場を使用し2～3人で入浴できる。また個々の希望に合わせて個浴・夜間入浴を行い(比較的早い時間)回数も希望に応じている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望で、併設デイサービスの大浴場で入浴されることが多い。季節に応じて、ゆずや菖蒲を浮かべる等して、季節感を味わえるよう支援されている。乾燥する季節には、入浴後に保湿剤を塗布する等して、皮膚の乾燥を防げるよう支援されている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 個々の入眠状況に合わせて支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬マニュアル・チェック表を作成し指示どりの服薬が出来るように支援している。また日常服用している薬の効果・目的・副作用が、理解できるように、処方箋、文献で把握出来る様になっている。臨時薬が出た場合は、申し送りや伝達簿で把握出来る様になっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や経験を活かした(針仕事・食事の下ごしらえ・洗濯物たたみ等)趣味活動の参加等で張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の体調を考慮し希望を聞きながら、短時間でも外出できるように努力している。公園へお弁当を持ってでかけたり、中庭で昼食を摂ったり奥道後のお花見へは、家族にも声をかけまた併設の小規模多機能・デイサービスの利用者の方も一緒に出かけた。	
			(外部評価) 利用者の重度化に伴い、外出をおっくうがる利用者も増えていようだが、近所のスーパーへ食材やおやつを買いに出かけたり、散髪にも出かけておられる。4月には、ご家族も一緒に桜を見に奥道後へ出かけられた。8月には、実習生と、道の駅「風和里」に出かけて食事されたり、9月には、「イチジク狩り」にも出かけられた。外出の難しい利用者は、中庭の日当たりの良いベンチでおやつを楽しめるよう支援する等して、外気に触れる機会を作っておられる。ドライブ等、車で外出される時は、併設するデイサービスの車を使用するため、時間や場所に制限があるようだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小銭は自己管理している方もいる。欲しい物があれば一緒に出かけ希望のものを買っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば家族や大切な人への電話をしたり年賀状の代筆をしたり手紙のやり取りが出来るように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには、観葉植物や季節の花を飾り心地よい音楽を流したりまた玄関から庭が見えるよう椅子を置いて居心地よく過ごせるように工夫している。趣味活動で作成した俳句や短歌、習字、塗り絵などを飾っておられる。	
			(外部評価) 窓からは山や畑の景色がよく見え、季節やお天気もよくわかる。居間には、紙細工の壁飾りや、習字、塗り絵等、利用者の作品が飾られている。吐き出し窓の外側には、夏場は、朝顔や風船かずらのグリーンカーテンを作り、日よけを工夫された。トイレには便所と大きく表示されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関には、椅子やソファを置き、食卓テーブルからはなれた場所にソファを置き思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	
			(外部評価) 使い慣れた馴染みの物を置き利用者の方が穏やかに過ごせる雰囲気作りに努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、併設デイサービスで作った絵手紙や押し花等を飾られ、趣味のカラオケセットを置いている方もみられた。ご位牌を持って来られている利用者は、生花をお供えて、デイの「陶芸教室」で作った地蔵の置物を置き、毎朝、職員が用意したご飯をお水とともに供えられる。観葉植物に水遣りをされたり、洗面所には庭で摘んだ草花を飾っている方もみられた。	
			(外部評価) 利用者の状態に合わせて手すりをトイレ廊下などに設置、安全確保と自由への配慮に努力している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の状態に合わせて手すりをトイレ廊下などに設置、安全確保と自由への配慮に努力している。	
			(外部評価)	